

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

2018

12

No.814

P2 特集①

ご存知ですか?
あなたのまちの地域福祉計画

P4 特集②

地域福祉を担う福祉専門職の養成

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」地域での支え合い

P7 みんなでつくるひょうごの福祉
中高生世代が「ふらっと寄れる」場所へ
～NPO法人スマイルひろばによる居場所づくり～

P8 キラリ★社会福祉法人
社会福祉法人 ひびき福祉会 パラスポーツフェスを開催

P9 私の物語
「自分らしく輝ける社会」のお手伝いがしたい
柏木 登起さん(明石市)

P10 ひょうごの福祉NOW

P12 インフォメーション



新酒の季節を迎えるよ。
酒米には、山田錦・兵庫夢錦・
兵庫北錦などがあるよ。

12月は、「障害者週間」(3～9日)、「人権週間」(4～10日)です。



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。





ご存知ですか？ あなたのまちの地域福祉計画

今年4月施行の社会福祉法において、地域福祉計画の策定が任意から努力義務に規定されるとともに、他の分野別計画の上位計画に位置付けられた。

地域福祉に対する大きな期待が寄せられる中、地域福祉の計画にはどんな意味があるのだろうか。

今号では、改めて地域福祉計画の意義とこれから求められる計画づくりを取り上げる。



住民ワークショップによる地区福祉計画(三木市)

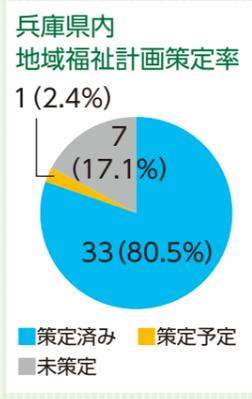
地域福祉計画の意義と特徴

地域福祉計画の2つのテーマ

地域福祉計画の策定が社会福祉法で市町村の努力義務として規定され、国のガイドラインが15年ぶりに改定された。これは、政府が提唱する「地域共生社会の実現と地域福祉の強化の意図を示したものである。改定の背景には、家族・職場・地域コミュニティが弱まる中で拡大する「社会的孤立」への対応がある。誰もが、様々な社会参加と多様なつながりの中で、自尊心を持って生きていくための方策を各自自治体にあった形で作っていくことが、地域福祉計画の最大のテーマである。その一つとして、「縦割り」支援を「丸ごと」化し、包括的な相談支援体制を市町村ごとに作ることが法律上に明記された。地域福祉計画のもう一つの主題は、住民主体の地域づくりである。人口の減少や高齢化などにより将来的な地域の維持が危ぶまれる中、自分たちで暮らしを守る組織や仕組みを地域に再構築するためのビジョンづくりは、地域福祉の大きな課題である。

地域福祉計画の特徴

一般に行政計画は、施策の方向性やそれを実現するための具体的な方法や手段を示すものである。地域福祉計画は、ボランティア活動者をはじめとする多様な人・団体が協働して、暮らしやすい共生の地域づくりを進めることに目的がある。このため、住民参加がキーワードとなり、官民協働で地域福祉を進めるための基盤整備が計画の重要な中身となる。計画に盛り込む基盤整備としては、「地域福祉活動への参加を促す者への支援」や「住民が交流できる拠点の整備」、「地域福祉の人材づくり」等が国のガイドラインであげられている。現在、兵庫県版のガイドラインともいえる県地域福祉支援計画の改定作業が行われており、その内容も踏まえて各市町の計画策定や見直しが行われる。



地域福祉の特徴は、既存の制度や仕組みで対応できない地域生活課題に、先駆的・開発的に対応することである。このため、計画づくりの段階で課題対応を盛り込むだけでなく、計画の実行段階で出てくる課題に対応していくための場や仕組みを計画に盛り込むことになる。これまでの地域福祉計画はどちらかといえば理念先行で、協働で課題解決するための具体的な場や仕組みが提示されない事例も多く見られた。今後は、行政を主語とした具体的な取り組みや施策が、計画の実効性を高める上で必要である。

地区福祉計画のススメ

暮らしやすい地域づくりに向けて忘れてはならないのが、地区福祉計画だ。市町単位の計画への住民参加は限られる。身近な地域で住民の実感のこもった課題を幅広い住民・関係者が話し合い、力を結集するのが地区福祉計画である。理想は、地区福祉計画の内容が、行政の地域福祉計画、社協の地域福祉推進計画に反映されることだが、地区福祉計画自体がないところも多い。県内で地区福祉計画がある市町は8市町(平成29年度県社協調べ)である。地域に合った住民自治の福祉プランとして、自治体、社協ともに策定を支援していく動きが期待される。

次に西宮市の地区福祉計画の取り組みを紹介する。西宮市は、平成元年から8次にわたり、概ね小学校区に組織された地区社協が中心となって計画を策定してきた。市社協が支援した経緯もあり、各地区では計画に基づく交流・見守り活動や住民によるボランティアセンターが広がっている。

北夙川・苦楽園地区福祉計画(西宮市)

閑静な住宅街の北夙川・苦楽園地区。古くからの地域組織が活発に活動する一方、組織に入らない新しい住民層も暮らし地域である。また、2つの小学校区をまたぐ広い地域であることも特徴だ。

第8次の地区福祉計画づくりに際しては、幅広い年代の住民の声を聴くことに心を砕いた。計画の骨となったのは、全世帯アンケート調査であった。755件もの回答があり、とりわけ住民同士の交流を求める意見が数多く出された。こうした声をカタチにしようと、計画は「協議の場づくり」「交流の場づくり」「情報提供」等、5つの取り組みを柱に掲げた。

これらを実行するために、計画をきっかけに設置したのが「地区ネットワーク会議」である。地区社協だけでなく、幅広い地域組織、コープこうべや地域包括支援センター等が参画。「互いの活動を知らなかった」という感想から始まった同会議では、「情報」をキーワードに小委員会を組織し、何度も話し合いを重ね

ている。交流の場を求める住民の声に対し、すでに地域にある様々な「ついで場」の情報を届けることが目的である。ついで場等の地域活動をわかりやすくまとめたリーフレットを今年度末に発行し、全戸配布する予定である。計画策定委員長で地区社協会長の橋本さんは、「計画の原点は、住民の声と地域の課題を見つめること。ともすれば活動者目線になりがちだが、この計画で常に原点に立ち返ることができる」と話す。市社協の地区担当者は、今回の計画の特色を「多様性」と話す。従来からの地域福祉活動者だけでなく、多様な組織人が交わることから新たなつながりと取り組みが生まれている。





地域福祉を担う 福祉専門職の養成

国は今後の福祉改革の基本コンセプトとして「地域共生社会の実現」を位置づけた。住民に身近な圏域で、住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくりが進められている。

今後、この地域共生社会づくりを進めるには、高齢、障害、児童など専門分野ごとに支援を必要とする当事者へアプローチするだけでなく、分野を超えて住民と協働した地域づくりを支援する福祉専門職の養成がますます重要となっている。

特集では、兵庫県社会福祉研修所(以下、「研修所」)が実施する「地域福祉研修」の取り組みを紹介するとともに、各市町域での福祉専門職養成の方向性について考える。



福祉現場の実践に基づく 地域福祉研修の特徴

研修所では平成28年に研修体系を見直し、「多職種・地域と協働できる専門職養成」を一つの方向性として打ち出した。その中で、「地域福祉コース」を開設し、生活の場で暮らし続けるための支援(地域生活支援)とそれが可能になる地域づくり支援(地域支援)を一体的に進めるための研修を「地域福祉研修」として新たに導入した。

また、「地域福祉専門ゼミナール」は、これまで社協職員を対象に地域支援を学ぶゼミナールであったものを、地域福祉研修で基礎を学んだ社協以外の福祉専門職にも対象を拡大し、ステップアップが図られるようにした。

さらに、組織を管理する立場の方々を対象に開催する管理職研修においても地域福祉の視点を盛り込むなど、総合的な養成を目指している(図表)。

地域福祉研修の特徴は、地域福祉の研究者と福祉現場で活躍する専

図表 研修所が実施する「地域福祉研修」と関連研修

管理者	<スーパーバイザー養成コース> ■地域福祉専門ゼミナール ※社協職員に加え、「地域福祉研修」を受講した施設・事業所も対象	<リーダー・管理職向けコース> ■管理職研修
指導的職員(主任・係長等)	<地域福祉コース> ■地域福祉研修(50名定員 4日間) ※地域福祉に関心のある社会福祉従事者(実務経験3年以上)を対象	
中堅職員(実務経験3年以上)		

門職による講師チームと研修事務局である研修所が共同で企画・運営・ニキスト開発・評価を行い、研修を実施しながらつくり上げてきたことである。研修で用いる演習も現場での経験をもとに事例化し、現場のリアリティに基づく生きた内容となっている。こうした地域福祉の専門職養成は、国レベルにおいても社会福祉士養成のカリキュラム見直しや専門職の養成プログラムの開発が今まさに行われているところであり、現場の実践をベースにした研修開発として注目を集めている。

研修内容とその波及効果

地域福祉研修は、多職種の福祉専門職が地域福祉を担う力をつけるための基礎研修とし、地域生活支援と地域支援について4日間を通して学ぶもので、平成28年度の開始から今年で3年目を迎える。

コンセプトは、専門職と当事者の関係を、サービス提供者と利用者という支援関係ではなく、共に生きる人として捉え、当事者・地域住民・専門職の三者が相互に力を引き出すというもの。

当初は、「地域がテーマの研修は施設・事業所のニーズに合致するか」という懸念もあったが、高齢・障害・児童生活困窮といった幅広い分野から、支援員、ケアマネジャー、保育士などの様々な職種の専門職が受講し、毎年高い評価を得ている。

この研修では、現場で実際に多職種が連携して支援する場面を想定して、ほぼすべてのプログラムをグループ演習とし、その中でチーム運営を擬似的に体験する。

また、受講者は研修を通じて、自

事例 宝塚市 ネットワークが生み出す 地域の居場所作り

身の地域で実践できることは何かを考え、具体的に専門職と地域が協働して実施するプランを立案する。そのプランについても多職種で構成するグループで検討し、受講者の大きな気づきを生み出す貴重な機会となっている。

受講者からは「地域に出ていく勇氣をもらった」「専門職である前に、私自身も住民であることに気づいた。主体は住民にある。住民とともに地域づくりを進めたい」といった

宝塚市にある逆瀬川団地では、高齢化率の上昇に伴い住民の交流が乏しくなりつつある。そんな中、同研修を受講した宝塚市社協「コミュニティワーカーの働きかけにより、平成29年10月、自治会、聖隷デイサービスセンター、UR都市機構、コープこうべ、コミュニティ西山、民生委員・児童委員、地域包括支援センター等で集まる「地域笑顔さかせあい・ささえ愛の会」を立ち上げた。話し合いを続ける中

声が寄せられている。

住民の思いを汲み取り、地域にさまざまなつながりの場を作り出す社協と社会福祉の専門性を持つ施設・事業所がさまざまな団体や機関を巻き込んでネットワークを生み出し、住民が主役の地域づくりを進めていく。こうした取り組みが県内各地で広がりをみせるよう、その担い手となる福祉専門職の養成に向けて、地域福祉研修のさらなる充実を図っていく。

で、「子どもも高齢者も一緒に交流できる場がほしい」「独居高齢者を含めた居場所づくりにもつながりたい」などの声が出た。そこで、地域住民がぶらっと立ち寄り、温かいご飯を食べながら地域とのつながりを感じられる場を企画することとし、今年4月に「ぶらっとのがみ」の開催を実現した。好評を博し、2回目

が開催されるなど、その活動はますます広がりをみせている。



デイサービスセンターを開放した会場では、世代を超えた住民たちが集った

これからの市町域での展開

今後は、住民に身近な市町レベルで地域と協働できる専門職の養成が不可欠である。地域福祉研修のような研修が行政が策定する地域福祉計画等に位置付けられ、市町域でも継続して実施されるような基盤整備が重要だ。

県内では、各市町域において社会福祉法人が種別を越えて連携し、互いの専門性を生かしながら地域の多様なニーズに対応する社会福祉法人連絡協議会(通称「ほっとかへんネット」)の組織化が進められている。市町域での人材養成に向けては、社会福祉の専門性を有する社会福祉法人によるネットワークを活かした展開が大きな推進力となるだろう。

そして、専門職同士の学び合いにとどまらず、将来的には地域の民生委員・児童委員や住民リーダーと共に学習し、相互の気づきを話し合う機会づくりも視野に入れつつ、関係機関の連携・協働が進むように、機運を盛り上げていきたい。

NPO法人スマイルひろばは、尼崎市立地域総合センター神崎で多世代交流の場所になるようさまざまな事業を行っているんだ。今回は、中高生世代を対象に、「誰もが気軽に立ち寄れる」ことを目的とした子どもたちの居場所づくりの取り組みを紹介するよ。



みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

しかし、自治会長や民生委員・児童委員をはじめとする地域住民から子どもたちの居場所や「アカン」との声が上がり、後継施設として旧会館を活用した子どもたちの居場所づくりが始まった。

館内には、卓球台やバスケットゴールを設置されたほか、集うきっかけとなるようなイベントやワークショップが開催されるなど、さまざまな取り組みが行われた。

こうした子どもたちが集い、遊び、学ぶ場の運営やイベント等の取り組みを継続的に行っていくための組織として、平成24年に立ち上げられたのがNPO法人スマイルひろばである。

**きつかけは
青少年会館の閉鎖から**

尼崎市神崎地区の神崎青少年会館（以下、「会館」）は、地域の小中学生や高校生らが放課後などの好きな時間に集まって遊んだり、宿題を持ち寄って勉強したりする場として、子どもたちの声が届かない場所であったが、平成18年の事業見直しにより閉鎖されることになった。



地域住民やフードバンク関西から寄付されたパンを提供

中高生世代が 「ふらっと寄れる」場所へ

～ NPO法人スマイルひろばによる居場所づくり～

より多くの居場所づくりに向けて

子どもたちの成長とともに、学校生活の区切りを機に足が遠のく子どももいる。「用事がなくても気軽に遊び



子ども目線の可愛い看板が開催の目印

**子どもたち誰もが
立ち寄れる場所へ**

スマイルひろばでは、活動を活発にしようとして、さらに多くの子どもたちが立ち寄りやすくなるような新しい取り組みを検討した。その一環として平成27年にスタートしたのが「スマイルカフェ」である。にぎやかな会館の中に比較的静かで穏やかな場所を作り、パンや飲み物などを提供する中で、「今までは足が向かなかった子どもたちも来やすくなるのではないか」という考えから始められた。

カフェは毎週2回、平日の夕方に開催される。今ではここを訪れる子どもたちは「たまたま」と言いながらカフェの中に入ってくるようになった。

取材を終えて スマイルカフェの温かく迎え入れてくれる雰囲気と「おかえり!」という声掛けが、子どもたちにとって居心地良く、安心して過ごせる場所を作っていると感じました。

NPO法人 スマイルひろば 尼崎市神崎町14-22 TEL 06-6439-6500

「高校生居場所カフェフォーラム」のご案内

学校内に「居場所」としての「カフェ」を作ることで、生徒たちの持つ様々な課題の早期発見や、相談支援を進める取り組みを広めます。

【日 時】平成31年1月26日(土) 14:00～16:30 【場 所】尼崎市立すこやかプラザ
【参加費】無料 【定員】120人 ※手話通訳あり 【締 切】定員に達し次第
【申込先】smile.kanzaki2006@gmail.com 名前、参加人数、連絡先、所属(任意)を記入。
【URL】https://www.facebook.com/events/270185086941945/

に来てくれる場所になれば」とスタッフの一人は話す。また、以前は関わりが多かった学校教員との関係性が薄まってきたことも課題の一つになっていることから、学校やその他の関係機関と連携が図れるようフォーラムの開催等にも取り組んでいる。

今後、子どもたちを育む地域のさまざまな機関と連携することで、中高生世代が「ふらっと寄れる」地域の大切な場所になっていくだろう。

TOPICS

広がる! 地域での支え合い!

県内各地で、「地域での支え合い」を合言葉に地域フォーラムが開催されているよ。

地域住民をはじめ、民生委員・児童委員、行政、社協、社会福祉法人・施設、NPO・ボランティアなど多様な主体がつながり、支え合うことが大切だね。

各市町での地域フォーラムの様子を紹介するよ。



地域に広がれ「子ども食堂」

赤穂市では、9月22日に地域福祉セミナー「子ども食堂(居場所)を考える」を開催し、市内外から115名が参加しました。

基調講演では『「なんとかする」子どもの貧困』と題し、社会活動家・法政大学教授の湯浅誠氏より、「自分に何ができるのか」と難しく考えず、まずは「行くだけの支援」があることをお話いただきました。またシンポジウムでは、市内で開催されている子ども食堂2カ所の代表者、県内先進地の一つである明石市の職員と、湯浅氏に登壇していただき、子ども食堂の現状や課題について一緒に考えました。



ふくしの(輪)～出かけよう!福祉まつりに～

加東市では、9月8日に「第12回かとう福祉まつり」を開催し、約700人の市民が参加しました。

今年はボランティアグループの中から「福祉まつり部会」を作り、福祉まつりに出かけたいという全体企画と一緒に考え、〇×クイズ大会やスタンプラリーを実施しました。スタンプラリーでは、ボランティアグループによる出し物や福祉体験コーナー、福祉機器の展示や東北・熊本物産展など、各催し物を楽しんで回ることができました。また屋外では、障害者作業所や地元高校生による販売もあり賑わいました。

午後からは、市主催の地域ケア市民フォーラムがあり、大道芸人たつきゆうさん(田久朋寛氏)による講演「認知症の方へ笑顔でやさしく接するコツを掴もう」もあり、みんなで地域の支え合いの大切さについて考えました。



高齢者体験セットでレッツ福祉体験!

「住民参加のまちづくり」を進めるために

佐用町では、9月29日に「佐用町地域福祉研修会・認知症フォーラム」を開催し、住民や福祉関係者など約220名が参加しました。

第1部では「徘徊～ママリン87歳の夏～」という認知症ドキュメント映画を上映。続く第2部では、介護者と地域の支援者で「もっとやさしいまちになるために」をテーマにパネルディスカッションを行い、「ひとり」ではなく、周囲と「支え合う」ことの大切さを登壇者の思いにのせて、参加者に伝えました。

「やさしいまち」になるために、私たちに何ができるかをみんなで一緒に考える良い機会となりました。



認知症にやさしいまちへ



このコーナーでは、地域福祉のキーパーソンや実践者・当事者らのエピソード・想いを紹介していきます。

「自分らしく輝ける社会」のお手伝いがしたい

かしわざき とき
柏木 登起さん
(明石市)

Personal History

平成21年 NPO法人シミズシーズ事務局長(平成27年～代表理事)
平成24年 一般財団法人明石コミュニティ創造協会事務局長(平成30年～常務理事兼務)
平成28年 ひょうご女性未来経営受賞



私のモットー

頼まれたら断らない
断ることは自分の成長を
自分で阻害している
ことになる

明石NPOセンターではNPOの設立支援などが活動の中心でしたが、商店街の人々と地域の交流拠点がわかる「地域マップ」を作る機会がありました。「自分たちのこと」として真剣に考える地域の方々と身近で見て、「地縁」を基盤としたまちづくりの重要性を感じました。

「市民がもっと輝ける
舞台を創る」

平成21年に所属がシーズ加古川(現:シミズシーズ)に変わり、平

大学卒業後、民間企業に就職しましたが、平成18年に明石NPOセンターを立ち上げた知人にお手伝いを頼まれたことがきっかけで、NPOに関わるようになりました。当初は他に目指すものがあり、NPOに軸を置くことに迷いもありましたが、人や地域のために自分の人生をかけて活動する人々に出会い、その想いを知るうちに自分も本気でやるかと思うようになりました。

「人々の『想い』に触れて」



市民同士でまちづくり協議会のあり方を話し合う

成23年には地域自治推進を目指す明石コミュニティ創造協会(以下、「協会」)に事務局長として関わりました。今は、シミズシーズの代表として組織をマネジメントしながら、協会の常務理事兼事務局長も務めています。協会では、各小学校区に設置されたまちづくり協議会などの組織強化をサポートしています。市民同士の対話の場を創り、市民が地域の課題を「自分ごと」と考え、市民自身で解決できるよう支援しています。校区まちづくり協議会でまちづくり計画を作ろうとしていた時、「行政に任せたらええやん」と言っていた人が、住民同士で話

「誰かが『ではなく』
「自分から」やる社会へ

私たちの役割は、自分たちの力で地域を変えていく人々のサポートです。「誰かがやってくれる」ではなく、自分から活動できる人がいないと状況は改善されません。地域には障害者・高齢者・子ども・LGBTの方など、周囲の理解不足ゆえにさまざまな生きづらさを抱えて生活する人々がいます。「市民がいきいきと自分らしく活躍できる環境を整えたい」という思いは、NPOに軸を置くことと決めた時から変わりません。

今後は、もっと福祉の知識や現場の情報を集め、専門職とも連携しながら主体的に活動できる人を増やし、活動しやすい環境を整え、支援される側もする側も誰もがいきいきと自分らしく生きやすい社会を作っていきたいです。

Q2.どのように活動を進めていますか

A2.実施を決めた今年3月から、実行委員会を毎月開催し、詳細を協議していきました。実行委員は10名ほどで、実行委員長である利用者と、法人職員、近隣大学の学生やひょうご障害者スポーツ指導者協議会の方などの共催団体にも参画いただきました。開催については、ラジオや神戸新聞等で宣伝をしたり、チラシを近隣の公共施設に配布したりするなどして、当日は約140名の参加がありました。種目はパラリンピックの正式種目でもあるボッチャに加え、フライングディスクや、玉入れ、風船バレー等を実施しました。一人一人の障害の特性に合わせてさまざまなルールを設けることで多くの方が参加しやすいように工夫しました。

Q1.取り組みのきっかけは

A1.平成28年に障害者差別解消法が施行された際に、近隣の香寺総合運動公園から「障害のある方にどういった対応すればよいか」という相談がありました。自法人の利用者の中には、「最近では障害者にとって生活環境は整ってきていると感じる一方、趣味を楽しんだり、いきがい・やりがいを感じたりする環境が整っていない」という思いがありました。そこから、これまで法人で実施していた運動会の規模を広げるかたちで、「ひとりでも、だれでも参加できる」スポーツ大会を実施することにしました。今回は当事者目線を大事にするため、利用者
に実行委員長を依頼したところ快く引き受けてくれました。

暮らしを支える地域公益活動を紹介します。

☆キラリ★社会福祉法人☆ ～社会福祉法人ひびき福祉会(姫路市)～

パラスポーツフェスを開催

今回は、社会福祉法人ひびき福祉会が開催するパラスポーツフェスを紹介します。今年度が第1回となり、11月4日に開催されました。

地域の関係団体と連携を図りながら、パラスポーツの普及に取り組んでいる社会福祉法人の取り組みです。



Q3.今後、どのように進めていきたいですか

A3.この大会が姫路において伝統的なイベントとなるように、広げていきたいと思っています。当日会場に自力で行くことができない方の参加方法等の課題もありますが、そういった課題をクリアしながら継続して開催していき、その先にある障害者の自立を目指します。また、この大会は審判の育成にもつながります。2020年東京オリンピック・パラリンピックの審判資格取得のためには、80時間のボランティア経験が必要なこともあり、学生が継続してボランティアとして参加しています。この大会から、2020年に活躍する審判や、パラリンピック選手を輩出できたらうれしいです。



ボッチャの様子。ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを近づける。

社会福祉法人ひびき福祉会
姫路市飾東町庄227
TEL:079-252-8488
URL:<http://hibiki-hukushi.com/>

社会福祉法人の強みを
生かした実践を共有

10月25日、神戸市内で県社会福祉法人経営者協議会以下、「経営協」が「社会福祉法人の強みを生かした多様な実践」をテーマに例会を開催し、100名を超える法人関係者が参加した。

基調講義では、武庫川女子大学の松端克文教授から、「法人もコミュニティの一員であり、法人の安定性や継続性といった特長を生かし、地域におけるさまざまな居場所づくりが求められている」と説明があった。続いて、厚生労働省の玉置隼人地域福祉専門官をコメンテーターに迎え、県経営協青年協議会の飯田晴信副代表の進行のもと、高齢、障害、保育の各法人単独の実践と、灘区及び小野市の法人連絡協議会の実践が報告された。法人の持つ建物や職員、ネットワーク等の強みを生かした実践と、「見える化」することの重要性が確認された。



地域力強化と包括的な支援
体制整備対応セミナーを開催

11月1日、県福祉センターで、県内社協事務局長勉強会が開催され、市町村協と行政から計69名の参加があった。

当日は、「地域力強化と包括的な支援体制整備の考え方―地域福祉としてどう捉えて進めるのか―」をテーマに、日本福祉大学の平野隆之教授と関西学院大学の藤井博志教授による基調対談が行なわれ、「地域福祉行政の形成」の視点や地域福祉とまちづくり施策の一体化の考え方が示された。次に、昨年度の国モテル事業を実施した芦屋市の吉川里香氏と大阪府阪南市社協の猪俣健一氏から地域共生社会づくりに向けた実践が報告され、参加者全員によるグループワークにより協議を深めた。

参加者からは、「地域共生と地方創生の一体的な推進という観点で今後の展開の刺激を得た」「行政と社協が密に関わり地域福祉を推進することが重要」などの感想が寄せられ、縦割りを廃した総合的な地域福祉推進の考え方が確認された。

NPO法20年
地域フォーラムを開催

阪神・淡路大震災を契機に生まれたNPO法の施行から20年の節目に、ひょうごボランティアプラザをはじめ各地域のNPO法人等が参画した実行委員会が地域フォーラムを開催した。このフォーラムは、但馬地域（10月26日・豊岡市）、阪神・丹波・神戸地域（11月9日・西宮市）、播磨・淡路地域（11月13日・姫路市）で実施され、長年、非営利セクターとして活動してきたNPO法人や行政などの関係者が集い、この20年で「何ができて、何ができなかったのか」を振り返り、次の20年への展望を考えた。



阪神・丹波・神戸フォーラム

各会場では自らの活動を振り返るアンケート結果をもとに、各地域の実情を語り合い、これからつながりあう共助社会をつくることと議論した。来年2月11日には、神戸市内でNPO法20年全県フォーラムが開催される。

寄付・寄贈のお礼

障害者らをコンサートに招待

9月26日、株式会社大栄の生島健緒代表取締役より、社会福祉の増進のため、第5回グランディアコンサート「Kobe Jazz Night」阿川泰子 LIVE IN KOBE（10月24日、新神戸オリエンタル劇場）の招待券40席分が寄贈され、障害者とその家族が招待された。

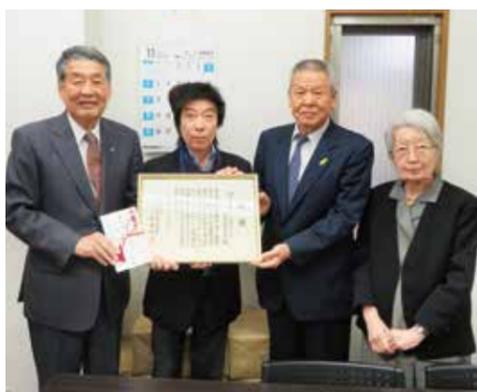
このたびの寄贈は、同社による社会貢献活動とスポーツや文化の振興活動の一環で、おしゃれで陽気なJAZZの調べを楽しむとともに、県政150周年という記念の年に新たな一歩を踏み出そうとの思いを込めて実施された。



豪雨災害の被災地へ寄付

11月5日、神戸元町ミュージックウィーク実行委員会の蓮池國男委員長より兵庫善意銀行に約13万5千円の寄付があり、吉本会長から感謝状を贈呈した。

このたびの寄付金は、神戸の秋の風物詩として定着している「第21回神戸元町ミュージックウィーク」のチャリティーコンサートで参加者に呼びかけ、集められたもの。いただいた寄付金は、平成30年7月豪雨災害で大きな被害を受けた岡山県の倉敷市社協を通じて災害救援・復興支援活動に役立てられる。



地域歳末たすけあい運動が
スタート

12月1日から「地域歳末たすけあい運動」が始まりました。「つながりささえあうみんなの地域づくり」をスローガンに掲げ、1カ月間、全国一斉に募金活動が展開されます。

募金は、年末や年始の機会に幅広い地域住民が参加できる交流活動や、地域の助け合い・協力による支援を必要とする人たちの見守り・生活支援、防災・減災の取り組み等を進めるために活用されます。誰もが安心して暮らすことができ「福祉のまちづくり」を展開するための大切な募金です。地域歳末たすけあい募金にご協力をお願いします。

募金のつかいみち
(昨年度の活用例)

【淡路市】「いわや地域生活拠点つながり」で幅広い世代の住民が参加して年末もちつき大会を開催。



【尼崎市】災害時に使用するリアカー等の資機材を購入し、住民とともに災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練を実施。



神戸ヤクルト販売株式会社に感謝楯を贈呈

【兵庫県】神戸ヤクルト販売株式会社では、毎年歳末たすけあいとして、兵庫県共同募金会を通じ、同社販売エリアの社会福祉活動の支援のために寄付されています。このたび、同社代表取締役社長 谷川 清十郎様へ中央共同募金会会長感謝楯を贈呈いたしました。



会場	西宮市福祉会館4階	宝塚市総合福祉センター1階	豊岡市社会福祉協議会本所内
住所	西宮市津門町2-28	宝塚市安倉西2-1-1	豊岡市城南町23-6
対象地域	阪神南	阪神北・丹波	但馬
開設日程	毎週火・木曜日	毎週金曜日	第2・4水曜日(12月のみ)
窓口時間	10:00~17:00 ※12時~13時を除く	10:30~16:30 ※12時~13時を除く	13:00~16:00

※詳細は、兵庫県福祉人材センターのホームページをご覧ください。
URL : <https://www.hyogo-wel.or.jp/work>

福祉の仕事探しを応援！
新たな相談窓口の開設

兵庫県福祉人材センターでは、福祉の仕事を探している方に、より身近な地域で相談対応できるように、10月末から順次、新たな相談窓口を開設。仕事の内容や福祉資格の取得方法などの相談に対応する。

助成金情報

県社協「ひょうごボランティアプラザ」のWEBサイト (<https://www.hyogo-vplaza.jp/>) では助成金情報を多数掲載しています。ぜひご利用ください。

公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団 2018年度公募福祉助成金

地域で福祉活動に取り組む民間団体や施設などに助成します。

対象 児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉、医療福祉などを行う民間団体
※対象地域の指定あり

助成額 1団体上限50万円(総額200万円以内)

締切り 平成30年12月20日(木) 必着

☎ ㊟ 毎日新聞大阪社会事業団
TEL 06-6346-1180

URL <https://www.mainichi.co.jp/osaka-shakajigygo/>

公益財団法人さわやか福祉財団 連合・愛のキャンパ助成

地域の助け合い活動の団体立ち上げや新規事業を支援するための助成を行います。

対象 新たに始める、地域における「ふれあい・助け合い活動」を行う任意団体、NPO法人、グループサークルなど

助成額 1団体上限15万円(19団体を別途に助成)

締切り 平成30年12月25日(火) 必着

☎ ㊟ 公益財団法人さわやか福祉財団
TEL 03-5470-7751

URL <https://www.sawayakazaidan.or.jp/index.html>

公益財団法人三菱財団 第50回三菱財団社会福祉事業・研究助成

開拓的ないし実験的な社会福祉に関する事業や科学的調査研究に助成します。

対象 国内において事業ないし研究の継続的拠点を有するもの(国籍等は不問)

助成額 総額約1億円(1件当たりの助成額は定めない)

締切り 平成31年1月24日(木)午後5時必着
☎ ㊟ 公益財団法人三菱財団
TEL 03-3214-5754

URL <http://www.mitsubishi-zaidan.jp/>

日本コープ共済生活協同組合連合会 2019年度地域ささえあい助成

①くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する、②命を守り、その人らしい生き方ができる

ようにする、③女性と子どもが生き生きする、をテーマとする活動を支援します。

対象 生活協同組合、NPO法人、任意団体、市民団体 ※その他要件あり

助成額 1件上限100万円(総額2,500万円以内)
募集期間 平成31年1月8日(火)～1月31日(木) 消印有効

☎ ㊟ 日本コープ共済生活協同組合連合会
TEL 03-6836-1320

URL <http://coopkyosai.coop/>

一般財団法人冠婚葬祭文化振興財団 第20回社会貢献基金助成

社会貢献活動を行う団体や社会貢献に資する調査・研究を目的とした事業に助成します。

対象 非営利組織(財団法人、社団法人、社会福祉法人、NPO法人、任意団体、市民ボランティアグループ)、大学、研究機関(個人も可)

対象事業 研究助成事業、高齢者福祉事業、障害者福祉事業、児童福祉事業、環境・文化財保全事業、地域つながり事業、冠婚葬祭継承事業

助成額 1件上限200万円 ※研究助成事業は1件上限100万円(総額およそ1,000万円)

締切り 平成31年2月28日(木) 必着

☎ ㊟ 一般財団法人冠婚葬祭文化振興財団
TEL 03-3596-0061

URL <http://www.ceremony-culture.jp/>

公益財団法人杉浦記念財団 第8回杉浦地域医療振興助成

医療従事者および介護福祉従事者等の多職種が連携して、「地域包括ケア」「健康寿命の延伸」の推進に寄与する活動に助成します。

対象 日本国内で活動する個人または団体

助成額 1件上限50万円(総額500万円)

募集期間 平成31年1月1日(火)～2月28日(木)

☎ ㊟ 公益財団法人杉浦記念財団
TEL 0562-45-2731

URL <http://sugi-zaidan.jp/>

研修・イベント

終末期ケア普及フォーラム

「人生の最期まで自分らしく暮らすために」をテーマにしたシンポジウム

日時 平成30年12月23日(日・祝) 13時～16時(受付12時30分～)

会場 兵庫県民会館 けんみんホール

参加費 無料

☎ ㊟ 一般社団法人 兵庫県老人福祉事業協会
TEL 078-291-6822

行事予定

- 12月 3日** 栄養士・調理師研修
◆県私学会館
- 6日** 近畿ブロック地域包括・在宅介護支援センター協議会兵庫セミナー
◆神戸クリスタルタワー
- 7日** 経営協 法人経営トップセミナー
◆オリエンタルホテル
- 10日** 県社協 第195回評議員会
◆県福祉センター
- 11日** 苦情解決セミナー(神戸会場)
◆兵庫県中央労働センター
- 13日** 職業倫理と権利擁護研修
◆県社会福祉研修所
- 14日** 財務管理研修
◆県民会館

福祉のしごとと職場見学バスツアー(淡路コース)

- ◆ゆうらぎ・五色精光園
- 17日** 子どもの理解と発達支援研修
◆県社会福祉研修所
- 18日** 日常生活自立支援事業 専門員事例検討会
◆県福祉センター

社会福祉法人 人事・労務管理研修(人事編)
◆県福祉センター

ひょうご若者被災地応援プロジェクト事業活動報告会
◆神戸クリスタルタワー

- 18日～19日** トップマネジメントセミナー
◆加古川プラザホテル
- 19日** 社会福祉法人 人事・労務管理研修(労務編)
◆県福祉センター

看護・介護職員研修
◆県立のじぎく会館

- 1月 5日** 平成31年新年福祉のつどい
◆神戸ポートピアホテル
- 15日～** 第21回介護支援専門員実務研修
◆神戸ファッションマートほか

18日 会計実務担当者研修(予算・決算編)
◆県立のじぎく会館

24日 経営協 第250回理事会・都道府県経営協セミナー
◆県福祉センター

28日 第3回社会福祉法人連絡協議会代表者等連絡会
◆県福祉センター

29日 相談面接技術研修(中級)
◆関西学院大学



綾小路きみまろ 笑撃ライブ! 2018
2018.12.20(木)

ディナー/7:00pm～ ショー/8:30pm～

会場 / 10階 ザ・ボールルーム

料金 / おひとり様 ¥28,000

(お料理・お飲み物・サービス料・税金込)

※チケットご購入後のキャンセル・返金はお受けできませんので、あらかじめご了承ください。

※18歳未満の方のご購入は、ご連絡させていただきます。

※全席禁煙(会場外に喫煙コーナーをご用意)

※記載内容は、予告なく変更する場合がございます。

※食物アレルギーをお持ちのお客様は、事前にお申し出ください。

チケットのお求めは
イベント係 ☎ 0120-75-4160

ANAクラウンプラザホテル神戸

〒650-0002 神戸市中央区北野町1丁目

TEL 078-291-1121 www.anacrownplaza-kobe.jp

新刊のご案内

生活援助
従事者研修
(59時間研修)テキスト

編集 堀田 力・是枝祥子

● B5判・322頁 ● 2018年12月発行予定

● 定価 2,700円(本体 2,500円+税8%)

生活援助
従事者研修
テキスト



ISBN978-4-8058-5823-3



中央法規出版(株)大阪営業所

TEL.06-6351-9079

〒530-0041 大阪市北区天神橋4-8-12

FAX.06-6355-3447